

# 労働相談室だより

働く者の相談室ひろしま

〒732-0057 広島市東区二葉の里 1-3-16 吉村ビル 3 階

☎ 082-262-3751 Eメール [roso34@ybb.ne.jp](mailto:roso34@ybb.ne.jp)

ホームページ <http://www.geocities.jp/rosohi>

## 相談室第7 回総会を開催

労働相談室ひろしまは、5月14日夕刻から広島市東区福祉センターで第7回総会を開催しました。この総会には賛同人など26名が参加し、成功裡に終了しました。総会は、山廣運営委員の司会で進められ、まず加藤世話人の主催者挨拶で始まりました。

5月11日から13日まで新潟で開催された「労働サミット」でのやり取りを紹介しながら、世界各国で問題となっている非正規労働者の大群が生み出された背景に、グローバリゼーションと国際競争力の強化が叫ばれ、日本では95年の日経連「新時代の日本的経営」戦略が押し進められてきたことに起因する。その結果が今日の「日雇い派遣」と呼ばれる働く貧困層の問題に端的に表れている。「自己責任で働き方を選ぶ」などとの美名で労働の規制緩和が進められ、総額人件費が抑えられたことで、企業は史上空前の利益を上げている。高木連合会長といえどもこれを「盗人猛々しい」といわざるを得なかった。ここに労働相談の必要性が高まる原因があり、その声に応える活動を強めようと呼びかけました。

来賓には、賛同団体から郵政ユニオンの栗原書記長が挨拶に立ち、郵政でも三月に非正規相談を取り組んだ。20万人といわれる郵政非正規の仲間の声に応えられる運動に取り組みたい、と決意を表明し、関西管理職ユニオンの大濱書記長は、関西での経験を総括的に紹介し、組織は金・事務所・人から成り立つ。定年後にボランティアで支えようという人をどれだけ獲得できるかにかかっている。相談する人からされる人になれ、と檄を飛ばしました。

続いて議案提案に入り、07年度の活動総括を谷本世話人が報告。08年度の活動方針を土屋事務局長が提案しました。満場の拍手で承認・採択されました。

また、第6期決算報告と第7期予算を加藤世話人が提案し、第6期会計監査を土屋みどりさんが報告し、これまた満場の拍手で承認・決定されました。

08年度新役員については佐々木運営委員が提案し、満場の拍手で選出されました。

最後に、新体制を代表して谷本世話人が閉会の挨拶を述べ、全ての日程を終了しました。

第7回総会は、短時間ながら相談室活動のレベルアップのための総括・方針・財政・人事を

全体で確認し、新たな飛躍に向けて歩みを開始するものとなりました。

ぜひとも今後の活動に賛同人の皆さんのご支援とご協力を賜りますよう、お願いします。

### 選出された役員(いずれも再任)

世話人	加藤徹夫	谷本大岳
事務局長	土屋信三	
運営委員	佐々木孝	山廣賢治
監査	土屋みどり	
顧問	足立修一	



### 労働寸評

物流業界も「再編」に見舞われている。昨年10月に民営分社化された郵便事業会社と日通ペリカン便が統合する。6月に郵便の過半数出資で「J Pエクスプレス」を設立し、来年4月にスタートというふれこみだ。だが、統合後の見通しは決して明るくはない。ヤマト12億、佐川10億に比して、統合会社の取扱量は6億個に過ぎない。郵政は国際物流でも後塵を拝し、中国市場を狙った業務提携で失敗した経過がある。他方のペリカン便も日通の「お荷物」と言われ、両者の傷の舐めあいでは始まった統合劇と酷評されている。広島東局がこの統合の県内モデルと位置づけられてきたが、未だ一切の情報は闇の中だ。いつの間にか空いた局舎空間は、トレーニングセンターに鞍替えされていた。統合会社の行く末も、事ほど左様に闇の中だ。

T.D

## 最近の相談例から

- 6ヶ月契約だが、「次の契約を更新しない」と言われた。＜スーパーストアの非正規労働者 女子＞
- 塾講師として就職したが、9日目で辞めてくれと言われた。どうしたらいいか。＜男性正規＞
- 08年1月まで60日間の賃金が未払い。4,5回請求したが、「資金繰りが苦しく、待って欲しい」＜建築会社職人 男性＞
- パートの娘がトラブルがあって辞めたが、1ヶ月分の給料が支払われない。＜女性パートの父親＞
- 派遣先のF運輸から（「単発お断り」と）仕事をもらえず帰された。交通費も出ず、とり合ってくれない。＜男性＞
- 3講座で4.5時間の契約だが、講座の準備時間と整理時間（前後で1時間程度）が賃金の対象外（契約書では、心構えとして20分前に準備に入ることが義務付けられている）。＜男性のパソコン講師＞
- 勤務先が倒産。3ヶ月分の賃金30万円が未払い。＜パートの女性＞
- 店長として9年間、22時～7時の深夜勤務。管理職手当5万円。深夜勤割増しの適用がない。要求できるか。＜勤続39年のスーパーストア店長 男性＞
- 3年前から店長で、3万円の手当がつくが月50時間の時間外勤務で、一般職のときより2万円のダウン。この差額を請求したい。＜販売店の男性店長＞
- 4時間労働で、残業しても残業代を支払ってくれない。どうしたらいいか。＜女性パートの医療事務員＞
- 通勤途中で交通事故に遭い、57日間入院、踵を手術（入院費用は会社が負担、通院費は自己負担）。「退職扱い」とされ離職。後遺症あり。＜50歳の女性派遣社員＞
- 一般会社を退職後、派遣会社に就職、10ヶ月で雇い止めとなった。雇用保険の適用は可能か。＜女性派遣社員の母親＞
- パソコンのインストラクターとして月15日位働いている。厚生年金に加入したいが、断られた。＜パソコンの女性インストラクター＞
- 上司、同僚からいじめ、病気休業中。退職したい。今後の妨害が気がかり。＜非正規の女性＞

### ご賛同に感謝！

第7期も各方面から多数のご賛同をいただきました。5月25日現在の賛同者数は、10団体と92人です。ありがとうございます。

## 外国人労働者問題（庄原）の報告

庄原から、中国の実習生たち6名からの相談があったのは、まだ昨年のことだった。内容はまたも残業代の未払いについてであった。ざっと計算しただけでも120万円ぐらいに及んだ。信頼関係もない中で、通訳を通じて何回かの会合を持ち、年明けの3月から行動を起こすことを決定した。

彼女たちが雇用されていたのは庄原電装と言うが、実際に働いていたのはサンエーという三菱関連の会社であった。研修という名の下での派遣に近い形態だったのかとも思う。労働実態がそれほどひどいわけではなかったが、残業代計算が時給400円とか、450円でなされていたのである。

会社との交渉では、なかなか未払い賃金を認めず、認めてからも必要経費がかかっていて支払う金はないなどという抵抗をしてきた。その中身たるや、家賃が月に一人4万円だとか、（大家さんに確認すると月に6万円の一軒家であった。）買い物に連れて行った手間賃だとか、旅行費用が4万円とか、とにかく挙げられるものはすべて挙げて、差引くといったやり方であった。これらのいい加減さを暴きながら、最終的には、一人100万円の支払いを確認させた。

ところが、金の支払いの段階と帰国の段階でさらに波乱が起こった。こここのところは、またあらためて報告したいと思う。（土屋）

## 08年度の活動計画

月	学習会	その他
6月		スタッフ講座①
7月	「職場のいじめと対処法」	
8月		スタッフ講座②
9月		労働110番 便り15号発行
10月		
11月	「地域ユニオンの実情」	
12月		スタッフ講座③ 便り16号発行
08年1月	「労災の実態と闘い」	
2月		労働110番
3月	「不当労働行為の実情と労働委員会」	便り17号発行
4月		スタッフ講座④
5月		総会

\*運営委員会は、毎月第2月曜日（18時）を定例とする。